

学力向上 福室小学校プラン２１

I 仙台市標準学力検査結果と分析

1 全体としての傾向

期待正答率に対して、算数は上回っている学年が多いが、国語は、全ての学年で下回っている。理科、社会は、ほぼ期待正答率に近い。仙台市の平均正答率に対しては、全ての教科、学年で２～１２ポイント下回っている。正答率度数分布は、上位群が、市全体により低く、下位群が市全体より若干多い。全体的に下位方向へシフトしている。

経年変化で見ると、国語は２年生までの読み取る力は、期待正答率を上回っている。２年生の時点で読み取る力と言語事項が十分習得されず、３年生になると低下することが、上学年へ向けてのネックとなっていると推測される。

2 教科ごと、内容・領域・観点別

(1) 国語

内容別 基礎的な内容は理解しているが、説明文と物語の内容の読み取りは全学年とも低い。

領域別 言語事項の定着が悪く、そのため読むことのポイントが大幅に下がっている。

観点別 読書を含めた国語への関心意欲が低く、そのため読む、書くの能力が低いことにつながっている。

(2) 社会

内容別 児童に身近な内容は理解している。地図の見方や地域、国内の様子はあまり理解していない。

領域別 健康な暮らしをささえるは、市の平均を上回っている。私たちの国土と環境は、期待正答率を大幅に下回っている。

観点別 社会的な思考判断力は一定の水準に達している。社会的事象についての知識・理解は、５年生を除き期待平均値を下回っている。

(3) 算数

内容別 いろいろな考え方でとく問題と、百分率とグラフが期待正答率を下回っているが、その他は、期待正答率を上回っている。

領域別 ６年生の数量関係以外は、ほぼ期待正答率を上回っている。

観点別 高学年になるほど算数への関心・意欲・態度、数学的な考え方が下がってきている。

(4) 理科

内容別 ４年生の日なたと日かげの温度が、期待正答率に対し２０ポイント近く低くなっている。

領域別 ４年生の地球と宇宙が期待正答率に対し１０ポイント低いが、５年生は６ポイント高く、学年によって差が見られる。

観点別 ４年生の観察・実験の技能・表現が期待正答率に対し８ポイント低くなっている。５、６年生は、ほぼ期待正答率を上回っている。

3 成果と課題

国語は、スキルタイムや家庭学習に力を入れ、漢字などの言語事項が伸びてきている。しかし、物語や説明文の読み取りが期待正答率より低く、本校における大きな課題である。

社会は、関心・意欲・態度で向上が見られ、児童に身近な社会事象に対する理解力が高まってきた。

算数は、少人数指導を習熟度別グループで行い、個別指導を充実させることで一人一人の力が高まった。

理科は、児童の興味を高めるような実験を工夫して取り入れることで、興味、関心、意欲を高めることができた。

Ⅱ 学力向上に向けてのこれまでの取組の検証

1 効果的だった取組

- (1) 朝自習や家庭学習で漢字の読み書きを毎日行い、漢字の読み取りと書くことができるようになった。
- (2) 読み取る力を育てるため、図書室の本を週1回以上借りることを奨励し、読書が習慣化した。

2 課題を踏まえた今後の具体的な取組

(1) 国語

- ・ 漢字や言葉など基礎的な言語事項の定着を図るため、学校の学習と家庭での学習の連携を深めていく。
- ・ 短文づくりを普段の学習に取り入れ、自分の考えを文章で正確に伝えられるように学習訓練を行う。
- ・ 自分の考えを相手に伝え、また相手の伝えたいことを理解するのに効果的な方法として、ペア学習を積極的に取り入れる。

(2) 算数

- ・ 一人一人の理解力を高めるために少人数指導やTT指導を工夫していく。
- ・ 文章問題を正しく読み取らせるために、キーワードに赤線を引いて考えを整理する学習を取り入れる。
- ・ 低中学年では、具体物を使った操作的な活動を行い、算数の数や計算の仕組みを納得させ理解させる。
- ・ 中高学年では、自分の考えを図にかきながら論理的な思考力を育てていく。
- ・ 学校で学習した内容が、実生活で生かせるよう家庭学習と連携させていく。

(3) 社会

- ・ コンピュータやインターネットを活用して、社会の調べ学習を充実させる。
- ・ 知識だけでなく、人々とのかかわりを通して、社会へ関心をもち、社会の一員としてどのようにすればよいかしっかりとした考えをもたせる。
- ・ 地図から正確な情報を読み取らせるために、地図の基本的な知識を身に付けさせる。

(4) 理科

- ・ 理科の実験では、予想、確かめ、実験の結果から分かったことをまとめる過程を通して、思考力を高めさせる。
- ・ 子どもたちに身近な自然を実際に観察させるとともに、地域環境的に難しい場合は、デジタル教材を活用し、一人一人に疑似体験をさせる。
- ・ 基礎的な知識については、しっかり身に付くようにまとめる時間を確保し、教師側でチェックする。

Ⅲ 教員の指導力向上に向けて

- ・ 教材研究日に教材作りを学年で行って、指導計画や指導のポイントを話し合い、共通理解することで教員一人一人の指導力を高める。
- ・ ペア学習やグループ学習など効果的な学習形態を活用した指導方法の研修会を行い、教員一人一人の指導力を高める。
- ・ 授業を積極的に公開し、教師同士で授業を見せ合うことにより、それぞれの指導の優れたところを学び合い、各自の授業改善を図る。
- ・ 現職教育、校内研究を充実させ、教員一人一人の指導力の質を高める。

Ⅳ 家庭学習の定着に向けて

学年に応じた家庭学習カードを作成し、保護者の協力を得て家庭学習を定着させる。仙台市標準学力検査の結果を個人面談で知らせるとともに、学年ごとに学力向上の対策を示し、保護者へ協力を依頼した。

Ⅴ その他

児童一人一人の力を高め、確かな学力を身につけさせるため、仙台市標準学力検査の結果を分析し、更に効果的な指導法を学校全体で探り、実践していく。